



海外難民救援キャンペーン



ウガンダ元子ども兵、右目には義眼が埋まり、右ほおには銃創がくつきりと残るアドチ・ピッキーさん＝ウガンダで2024年11月1日、滝川大貴撮影

戦争などで故郷を追われた難民への支援を訴える「海外難民救援キャンペーン」。2024年度はアフリカ・ウガンダに毎日新聞の取材班を派遣しました。ウガンダは周辺国から多数の難民を受け入れていますが、国際社会の関心は低く、支援も不十分です。取材班は約50人の難民を取材し、過酷な暮らしを記事にしました。

記事に併せて募った「海外難民救援金」をもとに、本団は「取材地助成」「パレスチナ難民継続助成」「公募助成」の三つの助成を行いました。毎日新聞大阪・東京・西部の3事業団が

1979年にキャンペーンを始めて以降、贈呈した救援金の総額は17億3,198万8,344円になります。

「取材地助成」3団体に150万円を贈呈 テラ・ルネッサンス▽国際連合世界食糧計画 WFP協会▽難民を助ける会 (AAR Japan)
「パレスチナ難民継続助成」1団体に30万円を贈呈 国境なき医師団日本
「公募助成」2団体に50万円を贈呈 ゴーシェア▽Piece of Syria



毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん

「毎日希望奨学金」4,176万円
を給付

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支援する「毎日希望奨学金」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は、2024年3月12日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載しました。5月17日に奨学生選考委員会が開かれ47人に新規の給付が決定しました。継続者と合わせた24年度の奨学生は174人となり、合計4,176万円を支給しました。11年度からの総支給額は6億6,408万円となりました。

また、24年7月と8月に開催された毎日希望奨学金運営委員会で、25年度から奨学金支給額を月額1万円増額し3万円とすることが決まりました。

遺児ボウリング大会開催

交通事故などで親を失った子どもらとその家族を招いた「第31回そよかぜ杯ボウリング大会」が2024年6月23日、大阪市中央区の心斎橋サンボウルで開かれました＝写真。

「大阪交通遺児を励ます会」(青木勝代表)と本団が共催し、心斎橋サンボウルが協力。参加者はゲームを楽しみ交流を深めました。

92年から続く催しで、近畿地方在住の家族約100人が集まりました。34年にわたり交通遺児のための募金活動をしているホンダ自動車販売店協会大阪府ホンダ会の中川泰会長らもゲームに加わりました。終了後は昼食会と成績発表があり、会場は大いににぎわいました。



歳末たすけあい運動 報告

「歳末たすけあい運動」を2024年11月16日から12月23日まで実施しました。同運動に連動し、今年度から名称を改めた「毎日チャリティー美術フェア」は、12月20日から22日、大阪市北区の毎日新聞ビル地下1階のうめだMホールで開催し＝写真＝2,550万円の売り上げがありました。歳末義援金を加えると総額で3,873万円となりました。

フェアの売上金と歳末義援金をもとに児童福祉施設など7団体・施設に歳末慰問金品を贈りました。売上金などは、公募福祉助成金や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童のキャンプなど今後1年間の社会福祉事業の資金としても活用します。



専門点訳・音訳講習会開催

2024年度の「専門点訳・音訳講習会」(日本ライトハウス情報文化センター、本団主催)が5月16日から10月25日までの間、大阪市西区の同センターで順次、開かれました。

視覚障害者のための点訳・音訳ボランティアの育成と技術向上を目的にした講習会で、「点字毎日」創刊65周年記念事業として1987年に始まり今回で37回目になります。

点訳が「英語」と「はじめての理数系教材点訳」、音訳が「図表」と「小説の読み方」、他に電子書籍の「テキストデータ作成コース」の5コースがあり99人の参加者がありました。これまでの修了者は2,750人にのぼり、各地の点訳・音訳グループや点字図書館で活躍しています。

🌸 第54回毎日社会福祉顕彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する「第54回毎日社会福祉顕彰」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)は2024年7月19日に厚労省の代表や大学教授などからなる審査委員会を開き、社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房(滋賀県甲賀市:山下完和施設長、写真は森嶋克己理事長、前列右端)、酒井勇幸さん(長野県千曲市、社会福祉法人いなりやま福祉会常務理事、同右から2番目)、特定非営利活動法人 JFCネットワーク(東京都新宿区、鈴木雅子理事長、写真は伊藤里枝子事務局長、同右から3番目)の3件が選出されました。10月31日、東京で贈呈式があり、賞金(各100万円)目録と賞牌が手渡されました。



🌸 公募助成金14団体に贈呈

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业展開をする団体などから、一般公募で申請を受け付けました。2025年1月30日に有識者による選考委員会を開き、次の14団体に総額280万円を贈呈しました。

〈公募福祉助成金〉

手話エンターテイメント発信団oioi(大阪市東淀川区)▽しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西(同市北区)▽どりいむスイッチ(広島県福山市)

〈児童福祉特別枠〉

おてらおやつクラブ(奈良県田原本町)▽オ

ルケスタ(大阪府河内長野市)▽くじら(愛媛県八幡浜市)▽白浜レスキューネットワーク(和歌山県白浜町)▽はるるとダッシュの紙芝居(京都市北区)

〈高齢者福祉特別枠〉

希望の居場所(大阪市都島区)▽寝屋川あいの会(大阪府寝屋川市)

〈シンシア基金(身体障害者補助犬の支援)助成〉

日本介助犬協会(愛知県長久手市)▽兵庫介助犬協会(兵庫県西宮市)

〈世界子ども救援金助成〉

詳細は1面の下段をご参照ください

🌸 施設のこどもに「卒業祝い金」を贈呈

大阪府内の児童福祉施設で暮らし、今春に卒業する高校生123人に2025年2月16日、1人1万円の「卒業祝い金」を贈りました。同府内などの施設の生徒が参加した「自立生活技術講習会(SST)」の閉講式が同日、大阪市天王寺区のシェラトン都ホテル大阪であり、その中で贈呈式を行いました＝写真。

本団は1962年から、府内の施設を出て就職する生徒に祝い金を贈ってきましたが、今回から対象を「卒業生」に広げました。贈呈式では代表の生徒らに祝い金や激励の手紙を手渡しました。

SSTは大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部が主催し、大阪府社会福祉協議会、大阪市児童福祉施設連盟養護部会、本団が後援。企業等の協力を受け、約120人の生徒らは昨夏からビジネスマナーなど社会人としての心構えを学んできました。



🌸「能登半島地震救援金」報告

2024年元日に起きた能登半島地震。豪雨にも見舞われた被災地は、いまもたくさんの困難を抱えています。

毎日新聞社と毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団は1月5日から救援金を受け付け、本団から石川県への贈呈額は、24年1月17日・1,000万円、2月1日・1,000万円、4月24日・1,500万円、9月6日・500万円、2025年2月21日・400万円。第96回選抜高校野球大会での募金217万105円も合わせ、計4,617万105円(3事業団で総額1億3,417万105円)となりました。



🌸「小児がん征圧募金」 12団体に贈呈

毎日新聞社と本団の「生きる小児がん征圧キャンペーン」で寄せられた「小児がん征圧募金」を贈られた団体の代表者らによる「集い」が2025年3月14日、大阪市北区の毎日新聞大阪本社で開かれ、活動状況などを報告しました。同募金は小児がんの患者や家族の団体などの支援を目的に始めました。24年度は12団体に各70万円、総額840万円が贈

られ、集いにはうち10団体の代表者らが参加しました＝写真。これまでの贈呈総額は1億850万円となりました(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では4億4,240万円)。



🌸ミャンマー地震救援金

ミャンマー中部で2025年3月28日、マグニチュード(M)7.7の地震が発生しました。多数の死傷者が出ているほか、病院などのインフラも大きな被害を受けており、医薬品の不足も指摘されています。一方で、ミャンマーでは国軍と民主派や少数民族武装勢力が内戦状態にあり、事態は深刻です。本団は4月1日から救援金を募り、被災者支援を続けています。

(クレジットカード専用サイト＝QRコード)



ご寄付の方法

事業団の活動は皆さまからのご寄付で成り立っています。クレジットカードもお使いいただけます。スマートフォンなどでQRコードを読み取り、専用サイトでカード番号などの情報を入力してください。領収証の発行はできませんのでご注意ください。

◆郵便振替は以下へ

①ご希望の使途

- ア. 社会福祉のための募金(一般的な募金)
- イ. 小児がん征圧募金
- ウ. シンシア基金(身体障害者補助犬の支援)
- エ. 毎日希望奨学金
- オ. 海外難民救援金 など

②領収証をご希望の方は「領収証希望」

③お名前などの新聞掲載をご希望の方は「掲載希望」——と明記してください。

【郵便振替】

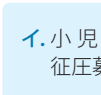
口座番号:00970-9-12891

加入者名:公益財団法人

毎日新聞大阪社会事業団



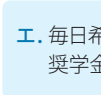
ア. 社会福祉のための募金
(一般的な募金)



イ. 小児がん
征圧募金



ウ. シンシア
基金



エ. 毎日希望
奨学金



オ. 海外難民
救援金

編集後記 58

- ◆「鳥の歌」をご存知ですか。20世紀最大のチェリストの一人パブロ・カザルスが、94歳で国連平和賞を受賞した際に国連本部で演奏した曲です。
- ◆カザルスが故郷を追われたスペイン内戦のさなかにパリ万博が開かれました。パブロ・ピカソが内戦の悲惨さを描いた「ゲルニカ」が展示されたことでも有名です。
- ◆今回の大阪万博では、ニューヨークの国連本部にある「平和の鐘」のレプリカが展示されます。この鐘は、平和活動に取り組んだ中川千代治さんが世界各国からコインを集めて作られ、1954年に贈呈されました。
- ◆毎年9月21日の「国際平和デー」を前に国連本部で鐘打式が行われています。私達はいつまで「平和の鐘」を鳴らし続けなければならないのでしょうか。(A)